

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の課題発見能力や問題解決能力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めるため組織的かつ持続的な授業改善に取り組むとともに、専門性の向上を図る教育に重点を置いた教育課程の編成をめざす。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>①ICT利活用を主題とした組織的な授業改善を継続して進め、生徒が主体的に学ぶ意欲を高めるとともに、専門性の向上を図る教育に重点をおいた教育課程を編成する。</p> <p>②生徒の主体的・積極的な学校行事への参加を支援する。</p>	<p>①日常的な授業見学、年2回の研究授業を行い、ICTの効果的な活用による授業改善を進める。また、新教育課程の編成および実施に向けカリキュラム検討委員会にて確認を行う。</p> <p>②生徒を中心とした体育祭、文化祭、球技大会等の学校行事を運営し、生徒の活動を支援する。</p>	<p>①年2回の研究授業・公開授業を行うことができたか。またICT利活用による授業を実施し、授業評価の分析や教科ごとの研究協議が行えたか。また、専門学科の特性に則した教育課程を編成することができたか。</p> <p>②学校行事に係る生徒アンケートで肯定的意見を得る等、生徒が満足する学校行事を行うことができたか。</p>	<p>①年2回の公開授業期間を設け、各教科にて授業見学や研究授業・協議を行った。分散登校・オンライン授業期間中の生徒の学びのためにICTを活用し、各HR教室にインタラクティブ電子黒板が導入されたことにより、多くの職員がICTの利活用に取り組むことができた。新教育課程の実施に向け専門学科の特性に則した教育課程を編成することができた。</p> <p>②コロナ禍ですべての学校行事開催が危ぶまれたが、文化祭、体育祭、球技大会ともに時期を検討し感染対策を徹底して実施することができた。特に文化祭では工夫を凝らして模擬店(調理・食販)を行うことができ、生徒の充実した活動を支援することができた。</p>	<p>①効果的なICTの利活用に向け、年間を通して授業見学ができるよう工夫する必要がある。継続して組織的な授業改善に取り組む。授業改善を進め、生徒による授業評価の結果から授業の工夫・改善・分析を行いたい。</p> <p>②コロナ禍においても感染対策のもと最大限の活動を実施することができた。今後も専門高校としてふさわしい行事の在り方を検討し、よりよい学校行事をめざしていきたい。</p>	<p>①小学校では授業でのICT利活用に向け、タイピングスキルを向上するための取り組みを進めている。小学校低学年からローマ字の学習と併せてローマ字入力を習得させるようにしている。そういった取り組みを中学校・高等学校でも生かしてほしい。</p> <p>②コロナ禍においても感染対策のもと最大限の活動が実施されていることが分かった。今後もよりよい学校行事をめざしてほしい。</p>	<p>①組織的な授業研究を推進し、分散登校・オンライン授業期間中の生徒の学びのためのICT利活用につながった。一人1台端末の活用に向けた指導方法と新カリキュラムにおける評価方法の研究・開発が今後の課題である。</p> <p>②コロナ禍においても大きな学校行事を、時期の検討と感染対策の徹底により実施することができた。感染力のより強いウイルスに対応し、行事等を継続していくことが課題である。</p>	<p>①生徒が自分の考えを発表したり協議したりするような教室での授業に適した情報端末の活用方法の研究・開発とそれを支えるソフトウェアの導入及び研修を行う。新カリキュラムにおける指導計画を作成し、それに適した評価方法や評価基準を決定する。</p> <p>②その時に主流となるウイルスの特徴と感染拡大の状況を的確にとらえ、行事の規模や内容などについて柔軟に対応していく。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①安心・安全な学校生活を送るための支援体制、指導体制を確立し、豊かな人間性や社会性を備えた人材を育成する。</p> <p>②専門学科の特性に由来する部活動を含め、教育活動における部活動の取組を支援する。</p>	<p>①生徒の様々な状況に応じた組織的な支援と生活指導を行い、社会人としてのルール・マナーの定着を図る。</p> <p>②生徒の学校生活の充実を図るため、生徒の自発的な部活動の取組を支援する。</p>	<p>①生徒の状況に応じ組織的な支援を行うとともに、身だしなみ指導と交通安全教育の充実を図る。</p> <p>②生徒の部活動加入率を維持する、かつ加入率の向上を図る。</p>	<p>①生徒の情報を共有し円滑な支援ができたか。また、身だしなみや交通安全のルール・マナーを徹底できたか。</p> <p>②生徒の部活動加入率が維持できたか、かつ加入率の向上が図られたか。</p>	<p>①昇降口指導や学年・HRでの身だしなみ指導や、自転車等の交通安全指導を充実し、ルール・マナーを守る規範意識の向上をはかることができた。</p> <p>②生徒の部活動加入率は47.4%(前年比-0.7%)であるが、運動部への加入率は2%向上した。専門性を活かした部活動の運営を行い、生徒を支援することができた。</p>	<p>①いっそうの規範意識の向上を目指し、身だしなみ指導や交通安全指導の徹底をはかる。また、生徒に対する日頃からの声掛けを大切にしていく。</p> <p>②約半数の生徒が部活動に加入しているが、今後も専門高校の魅力ある部活動の充実を図り、部活動加入率を向上させていきたい。</p>	<p>①地域の中学校での生活指導の落ち着きを反映して、高校でも落ち着いた学習活動が行われていることが分かった。生徒に考えさせる生活指導を目指してほしい。</p> <p>②生徒の体験的活動を増やすようにしてほしい。</p>	<p>①身だしなみ指導や自転車等の交通安全指導についで充実することができ、生徒の規範意識の向上を図ることができた。</p> <p>②コロナ禍にあっても活発に部活動を行うことができた。加入率のさらなる向上が課題である。</p>	<p>①規範意識をさらに向上させるため、生徒に身だしなみを整える意味を考えさせることで、主体的な取り組みとすることが課題である。</p> <p>②新入生への紹介方法や行事などでの在校生へのアピールなどを工夫することが必要であると思われる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月14日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	夢と活力ある産業人材の育成に向けて、専門高等学校の特性を生かし基礎的な知識や技能を体得して、社会的・職業的に自立する人物の育成を図る。	①農商併置校としての特性を生かし、インターンシップや農業体験を通じ知識や技能の体得、進路への活用を目指す。 ②学年毎に適したガイダンスを実施し、進学や就職に見合う基礎学力やマナーの定着を図る。	①本校の特性や生徒のキャリアデザインに即した、インターンシップや農業体験を周知し参加を促す。 ②ガイダンスや出前授業等を多様な分野で実施し、生徒の視野の拡張と進路への意識を向上させる。	①就職希望者はインターンシップに参加することができたか。また、農業体験参加生徒にとって、進路選択に有効であったか。 ②進路への意識向上により、進路室の利用が活性化したか。生徒の挨拶やマナーの意識は向上したか。	①インターンシップ・農業体験への参加を呼びかけ希望生徒の手続きを進めたが、夏季休業時は新型コロナウイルスの影響により実施に至らなかった。 ②会場・座席の工夫。オンラインの活用によりガイダンス等を実施し、進路室利用方法等を周知した。3学年だけでなく、1,2学年の利用者も増え、進路への意識が向上した。	①インターンシップ・農業体験への参加は、生徒自身の進路・適性を考えるうえで、貴重な体験となる。来年度も感染対策を検討しながら参加できる体制を整え、準備・周知を進めたい。 ②生徒の進路希望調査の結果や進路室の利用状況を分析し、学年や時期に応じたガイダンス・講話等の適切な進路指導の見直し検討に努めたい。	①コロナ禍により学校外の活動が制限されていることが多く、体験的な学習が少ないことが危惧される。 ②一般受験など進路決定の方法が広がっていることはよいことであると思う。家庭の経済状況により進路選択が狭められていることは心配である。	①コロナ感染症の影響でインターンシップ・農業体験が実施できなかった。コロナ禍で感染症対策と校外活動の両立が今後の課題である。 ②進路室の利用者を増やしたことで生徒の意識改革を進めることができた。進路担当者の負担を分散することが課題である。	①感染症への対応について生徒の家庭や体験先の事業所にしっかりと理解してもらうことで来年度は実施したい。 ②進路指導グループと3学年団の業務分担を明確化することで進路指導の効率化を図りたい。
4	地域等との協働	①地域に根ざした様々な産業との連携を重視した教育に取り組むとともに、産業社会に役立ち産業社会の発展に寄与する人材を育む。 ②地域に信頼される学校づくりを推進する。	①学科や校内外の枠を超えた連携により、専門性を高め、実践的な教育を推進する。 ②学校説明会、体験入学、学校ホームページを活用して、本校の魅力を発信する。	①直売所や各種連携事業の新規事業の立ち上げに向けた校内・校外の連携を強化し、環境整備を行う。 ②本校の魅力を発信できる説明会、体験入学等の充実をともに、学校ホームページを活用して情報を発信する。	①直売所や連携事業の新規立ち上げを行えたか。 ②アンケートにより、本校の魅力について、「わかった」と答える人が半分以上いたか。	①感染症対策の観点から、直売所や連携事業が思うように進まなかった点があった。一方で麻布大学との連携など次年度以降に向けた新規の連携事業を立ち上げることができた。 ②学校説明会、体験入学のアンケートでは「よくわかった」という回答が7割を超えており、「ややわかった」を加えると9割に達した。	①コロナ禍でできなかった各学科、地域との連携事業を継続するとともに、新たな地域との連携を模索する。 ②学校説明会、体験入学等は引き続き充実した内容を継続して実施していく。学校案内、学校ホームページの内容を検討して適時に情報発信に向けて取り組む。	①新型コロナウイルスの影響で地域活動が減っており、特に1・2年生の直売所等で販売経験が少ないことは、今後の実践的な活動に向けて不安材料である。 ②様々な検定試験の取得支援を進路につなげている取り組みはもっとアピールするべきであると考えている。	①麻布大学との連携事業により農業科の課題研究や農業クラブの研究班の研究活動をさらに活性化させる準備を整えることができた。感染症対策と直売所での活動の両立が課題である。 ②学校説明会で本校の魅力を十分伝えることができた。活動の継続が課題となる。	①麻布大学との連携事業の出前授業や研究支援を積極的に活用し、生徒に充実した研究環境を提供する。直売所の活動を工夫し、感染症対策をして実践的な活動を行う。 ②さらにホームページを充実させることで、本校の学習活動を中学生にアピールする。
5	学校管理 学校運営	①教員の働き方改革を推進するため、組織的な学校運営と校務の効率化を図るとともに、一層の事故防止に努める。 ②教育環境の整備や学校防災の取組により、生徒・保護者・地域との信頼関係を構築する。	①教員の働き方改革推進の観点から、各種視聴覚・情報関連の設備や機器の整備、管理、利用法の徹底を図る。 ②防災備蓄品の整備や災害発生時に対応した防災教育を図ることと同時に、教育環境の整備等を行う。	①設置・配備された各種視聴覚機材や情報機器の管理や利用の方法を周知することで、教員の働き方改革を推進する。 ②防災備蓄品の整備を行い職員と情報を共有する。防災訓練等を計画実施し、校内美化にも努める。	①Wi-Fi関連機器の管理を、管理簿等を利用して行えたか。また、その利用法を周知するための研修を実施できたか。 ②防災備蓄品の整備・情報共有が進められたか。計画的な防災訓練を行うことが出来たか。また、校内美化が進められたか。	①9月に1か月間行ったオンライン授業では、教員のレベルに応じた研修会を実施し、Wi-Fi関連機器を活用した授業を、時間割通りに配信することができた。 ②毛布や防災マット等の購入、救急用品の更新などを計画的に進めることができた。防災訓練についても、感染症対策を取りつつ、年2回実施することができた。掃除用品の購入・更新などを行い、美化委員による定期的な校内清掃を実施することで、校内美化を進めた。	①使用する教室によってWi-Fiの接続環境が異なり、安定した配信を保つために苦労した。各教室内に接続ポイントが設置されていることが必要である。また研修では特に年齢層によりリテラシーが大きく異なるため、十分な時間をかけて実施する必要がある。 ②防災備蓄品については毎年、整備・更新する必要がある。コロナ禍における防災計画の見直しなど、地域と連携を進めることが必要であると考えている。衛生用品、清掃用具など引き続き更新を進めたい。	①オンライン授業の実施やインタラクティブ電子黒板の導入が授業へのICT利活用を推進する起爆剤となっていたことがわかった。 ②近隣を流れる川の氾濫を危惧している。地域にある避難場所はその開設に条件があり、相原高校に避難所としての役割を期待している。	①インタラクティブ電子黒板とWi-Fi APの全教室への整備が終了し一人1台端末を授業で活用する準備は整った。生徒へのアカウント付与やWi-Fi接続支援が今後の課題である。 ②感染症対策をして防災訓練を行うことができた。継続が課題である。	①生徒へのアカウント付与についてはICT支援員の協力を得て進めていく。生徒端末のWi-Fi接続については年度当初のスケジュールに組み込んでいくことで担当者の負担軽減を図る。 ②今年度の実施方法を記録に残し次年度に引き継いでゆく。